

第1号 1996.7.4.

— 仮称 —

視情協通信 NAIIIV

な い - ぶ

(発行) 〒550 大阪市西区江戸堀1-13-2 盲人情報文化センター内
全国点字図書館協議会事務局

(仮称 全国視覚障害者情報提供施設協議会)

TEL 06-441-0015 FAX 06-441-0039

第44回日盲社協大会 点字図書館部会報告

去る6月13～14日、仙台市において第44回全国盲人福祉施設大会が開催され、約250人が参加して盛大に行われました。大会報告は日盲社協通信に譲り、事業部会に関して報告します。報告者は香川県視覚障害者福祉センター館長 大西良生氏。

配布資料

点字図書館部会提出議題

資料1～14

第22回全国点字図書館大会開催要綱(案)・日程

DAISY/PlexTalk(デイズ・プレクストーク)実用試験の意義と背景

1995年度「てんやく広場」報告

(欠席館には、先日、資料を送付しましたが、配布もれの施設がございましたらご連絡ください。)

50施設、80余名が出席し、司会は金津館長(ライトハウス・ライブラリー)、議長は小口所長(神奈川県ライトセンター)、記録は大西館長(香川県視覚障害者福祉センター)が担当。議題にそって進められた。

1. 平成7年度事業報告・決算について

川越部会長から概括説明。長期事業計画に基づいて事業を実施した。特に財政問題に着手し視覚障害者情報提供施設ネットワークに絞って、平成9年度に向けて厚生省に予算要求を行った。次世代録音図書製作については国際標準化システムの開発について河村宏氏の協力で大きな成果を得た。サービスの標準化については「日本の点字図書館11」の発刊が遅れたため着手できなかった。

各委員会報告は配布資料のとおり。特に、点訳委員会からは、既修了者のケアを主体にするという案もあったが、例年どおり認定講習会を実施したこと、機械化委

員会からは、宇野委員長の後任に河村宏氏が決定したこと、てんやく広場特別委員会からは、個人利用会員のアクセスがプリンティングセンターのそれを大きく上回っていること、書籍管理特別委員会からは本年1月より書籍価格を改定したことが加えられた。

各ブロック報告及び日本点字委員会報告は10月の大会に先送りされた。

また、部会長より、リコーの「点図くん」寄贈に関する報告があった。

以上で、平成7年度事業報告・決算については承認された。

2. 平成8年度事業計画・予算について

部会長から資料にそって説明。特に、音訳指導員資格認定講習会の開催回数については日自振補助事業であることや社会的効果を考慮して、通算回数を採用することとした。(平成8年度は第15回)

以上で、平成8年度事業計画・予算については承認された。

3. 部会名称・設置基準・組織規約等の改正について

部会長から報告

視覚障害者の情報環境が激変しつつある今、行動する日盲社協に変身し、組織の基本的な整備が必要。点字図書館の名称のままでいいか。その役割も曖昧では済まなくなってきた。点字図書館では大蔵省に対する予算要求の説明もできなくなっている。

部会名称も情報サービス部会にしたい。設置基準の改正要望については、弱視者対策としての拡大図書製作も視点に入れたい。提案はたたき台なので秋の岡山大会に向けて再度検討する。岡山大会(10月24~25日)2日目はフォーラムを予定し、意見発表者を5人公募したい。

部会規約の改正は、第11条・第19条を修正した上で、厚生省の大蔵省への予算折衝に絡むので平成8年7月1日をもって切り替えたい。(事実上、不可能になった)

質疑

三浦氏(霊友会) 弱視者対策は音声訳サービスだけでなく拡大写本も欠かせない。

部会長 拡大写本委員会(仮称)の設置も検討したい。

橋本館長(カトリック点字図書館) 部会名称については秋までペンディングにしてほしい。情報環境の流れに取り残されぬように表現しなければならない。

中村館長(滋賀県立点字図書館) 滋賀県でも点字図書館のあり方について検討中で、部会名称や規約改正はこの機会を逃せば1年遅れる。提案を支持する。

千田館長(千葉点字図書館) 橋本館長の意見を支持する。

部会長 情報環境の変化に対応しなければならない。公共図書館を取り込む等、柔軟に対応する必要がある。

橋本館長 予算要求に遅れが出てもやむを得ない。持ち帰って検討したい。

議長 強行採決する方法もあるが、禍根を残すので、部会名称及び規約改正を継続審議とする。

以上、部会名称及び全国組織名称の変更については第22回岡山大会（10月開催）において再検討するとの結論を得た。

4. 大会決議について
本部提案が了承された。

5. 特別報告

河村 宏氏からDAISY開発について状況説明があった。

DAISY（国際標準の次世代録音システム。CD1枚に50数時間の録音が可能。）がプレクストーク（DAISYで製作されたCD再生機）と合体して国際標準化が進められている。試作機を世界各国に無償配布してテストを行う。日本でもフィールドテストを行いたい。

DAISY開発促進のためにスウェーデン国立視覚障害者図書館（TPB）を中心に、日本を含めた7カ国で費用分担して開発を支援する組織を作ることとなった。これに加入しなければ国際化に遅れることとなり、DAISYによる製作・再生が困難となり、インターネットから取り残される。標準化は絶対必要である。日本の分担金300万円は平成8年度全点協の予算要望書に計上されている。

大会当日配布資料を以下のように変更します。

資料9

第11条（3）を省略し、以下のように変更する。

（運営委員会）

第11条 運営委員会は年2回以上開催し、次の事項を議決する。ただし、日常軽易な業務は部会長が専決し、これを運営委員会に報告する。

- （1）事業計画および予算の決定
- （2）事業報告および決算の承認
- （3）法人の業務、運営に関すること
- （4）各専門委員会・特別委員会の設置ならびに各委員の人事に関すること
- （5）その他、この部会の運営に関する重要事項の決定

第19条を以下のように改める。

（規約の改廃）

第19条 この部会の規約の改廃は、運営委員会の同意をえて、会員総数の3分の2以上の賛成を得るものとする。

資料 1 4

政策委員は欠員 1 名。新たに監事の小寺岩夫氏が加わります。

役員名簿は欠員 1 名。監事 1 名とします。

(変更のあった新名簿を添付します。)

—— 以上、第 4 4 回大会点字図書館部会報告でした

機関誌発刊と名称について

会長：川越利信

—— 全点協の機関誌を発刊します。ご協力をお願いいたします ——

5 月の企画委員会で、全点協には機関誌がないので情報が十分に把握できないので全体像が見えにくいと言う発言がありました。

その通りです。ずいぶん前に、機関誌を発刊したいと考え、そのような主旨の発言をしたこともあります。その後、多忙にまぎれ実現しておりません。あらためてこの機会に発刊を試みたいと思います。

情報をお互いに十分に提供しあい、問題意識や課題を全加盟施設の共有認識にしたいと思います。また、機関誌を通して委員会活動や組織全体の動きなどを知り、今取り組んでいる全体の動きなどが見えるようになることを期待しております。

発刊が継続されますよう、ご協力ください。

なお、機関誌名称は、たたき台として、10 月の岡山大会で同意を得られるであろう新しい名称を付けておりますが、他に適切な名称があればどうぞ提案してください。発行母体の事務所名称も今回提案した名称を仮の名称として付けております。これも併せて検討してください。この号は取りあえず、政策委員会の決定に従って、名称を改めるとこういう感じになるのかなと考え、試作しました。

なおこの機関誌は原則的には、てんやく広場による (NIFTY でも可) パソコン通信を前提とします。しかし、まだてんやく広場を導入していない施設で、どうしても活字版を希望される場合は、その旨ご連絡ください。活字版を送ります。

~~~~~ 短 信 ~~~~~

#### 《 第 2 3 回全国点字図書館大会のご案内 》

第 2 3 回全国点字図書館大会は、平成 9 年 9 月 2 5 日 ~ 2 6 日 (例年より 1 カ月早い)、北海道帯広市において開催されることに決定いたしました。飛行機等の手配につきましても、団体予約等を北海点字図書館でご検討いただいております。詳細は追ってお知らせいたしますので、しばらくお待ちください。

#### 《 訃 報 》

長崎県立点字図書館前館長 中島 信 氏におかれましては、去る 6 月 2 4 日永眠されました。生前の意向で身内だけの葬儀を望まれ、ご親族の方々もその意志を引き継ぎ、御葬儀が行われたとのこと。中島氏は、館長時代には九州ブロックの代表ならびに日盲社協点字図書館部会の政策委員を務められ、多大の貢献をされました。ご冥福をお祈りいたします。

(後記) 第 1 号はいかがでしたでしょうか。ご意見をお聞かせください。